

7 高等学校 芸術科 (書道) 問題用紙

(四枚のうち二)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、全て解答用紙に記入すること。)

□ あとの問一～問五に答えなさい。

問一 次のア～オの読みをそれぞれ平仮名で書きなさい。

- ア 蚕頭燕尾 イ 神龍半印本 ウ 呉熙載 エ 蓬萊切 オ 鄭長猷造像記

問二 次のア～オは、書道に関連のある語です。それぞれの説明を簡潔に書きなさい。

- ア 枕腕法 イ 形臨 ウ 封泥 エ 古筆 オ 千字文

問三 次のア・イに答えなさい。

ア 次の図版①～⑤は「温泉銘」の一部です。書かれている文字を、それぞれ常用漢字の字体で書きなさい。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

イ 次の図版①～⑤は「書譜」の一部です。書かれている文字を、それぞれ常用漢字の字体で書きなさい。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

7 高等学校 芸術科 (書道) 問題用紙

(四枚のうち二)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、全て解答用紙に記入すること。)

問四 次の図版①・図版②は「関戸本古今集」の一部です。あとのア～カに答えなさい。

図版①

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

図版②

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

- ア 「関戸本古今集」の由来・筆者・料紙の特徴を書きなさい。
- イ 「関戸本古今集」の書風の特徴を書きなさい。
- ウ 図版①の中に含まれる和歌の作者の部分抜き出し、書かれている字の読みを平仮名で書きなさい。
- エ 図版②は、図版①の一部を拡大したものです。ここで示されている七つの文字の字源をそれぞれ楷書で書きなさい。
- オ 図版①の中に含まれる詞書の内容を説明しなさい。
- カ 図版①の中に含まれる和歌の大意を書きなさい。

問五 次のア・イに答えなさい。

ア 次の文は、唐の虞世南の「筆髓論」の一節です。この文の内容を簡潔に書きなさい。

未解書意者、一点一画、皆求象本、乃転自取拙。豈成書邪。

イ 次の文は、清の王澐の「論書臆語」の一節です。この文の内容を簡潔に書きなさい。

通篆法、則字体無差、通隸法、則用筆有則。

7 高等学校 芸術科 (書道) 問題用紙

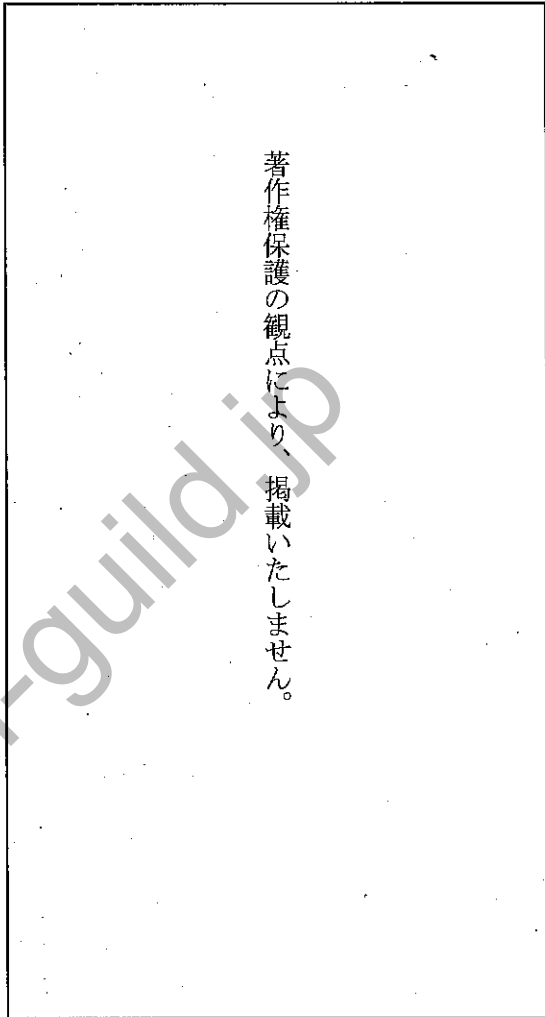
(四枚のうち三)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

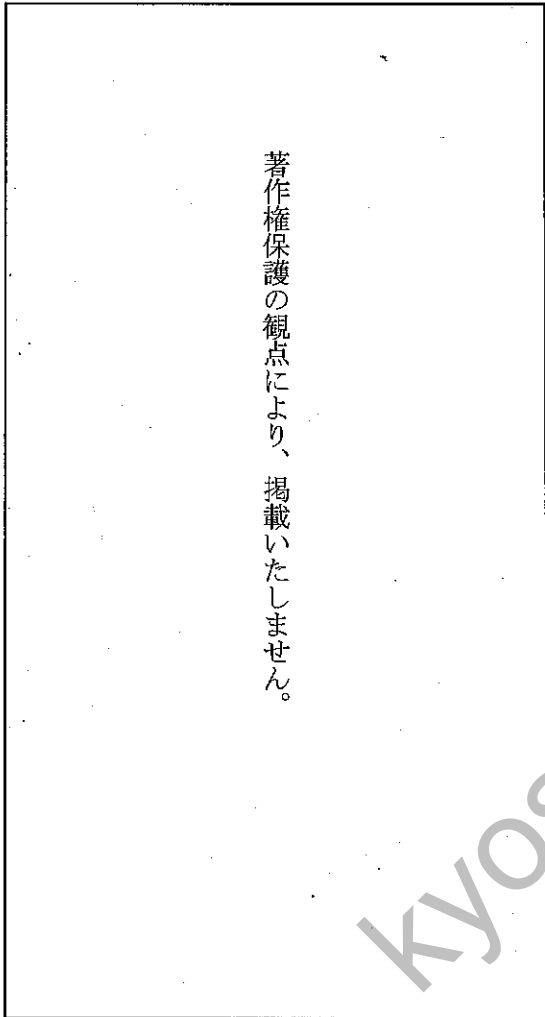
(答えは、全て解答用紙に記入すること。)

二 次の図版①は「曹全碑」の一部、図版②は「石門頌」の一部です。「書道II」の授業において、図版①・図版②を用いた表現及び鑑賞の授業を行うこととします。あとの問一・問二に答えなさい。

図版①



図版②



問一 鑑賞をする際に、図版①の「曹全碑」と、図版②の「石門頌」とを比較させることとします。どのような内容に注目させる必要がありますか。鑑賞の観点を「用筆・運筆」、「字形」、「特徴・印象」の三つとして、それぞれの観点における内容を書きなさい。ただし、図版①と図版②との違いを明確にして書きなさい。

問二 図版①・図版②を踏まえて「清風」という語を表現させることとします。図版①・図版②の書風を生かした表現の違いを明確にして、それぞれの表現意図及び表現効果を書きなさい。

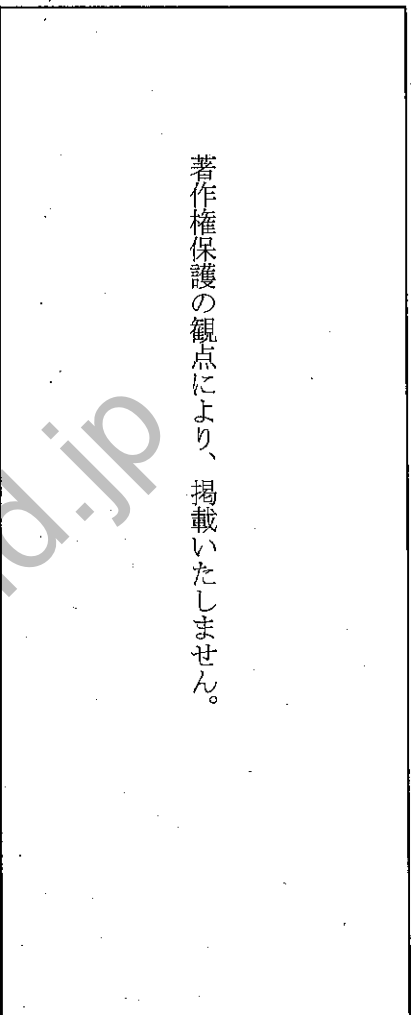
7 高等学校 芸術科 (書道) 問題用紙

(四枚のうち四)

受験番号	
氏名	

(答えは、全て解答用紙に記入すること。)

【三】 次の図版は「泰山刻石」の一部です。「書道I」の授業において、この図版を用いて、表現及び鑑賞の授業を行うこととします。本単元の目標及び単元指導計画については、あとのとおりとします。これらのことを踏まえて、この単元の評価規準を書きなさい。



著作権保護の観点により、掲載いたしません。

【本単元の目標】

篆書に関する中国等の文字と書の伝統と文化を理解するとともに、篆書の古典に基づく基本的な用筆・運筆を身に付け、篆書の書体や書風に即した用筆・運筆、字形について構想し工夫することで、幅広い表現の学習活動に取り組む態度を養う。

【単元指導計画】(全六時間)

第一次 (一・二時間目)	<ul style="list-style-type: none"> ○篆書が成立した背景を踏まえ作品を鑑賞し、特徴を理解する。 ○篆書の基本的な用筆を習得する。 ○ICT機器で撮影したものを相互評価する。
第二次 (三・四時間目)	<ul style="list-style-type: none"> ○「泰山刻石」の歴史的背景を踏まえ作品を鑑賞し、特徴を理解する。 ○「泰山刻石」の文字を繰り返し試書する。 ○試書を原本と比較し、自己添削する。 ○他者評価と自己添削を基に、清書する。
第三次 (五・六時間目)	<ul style="list-style-type: none"> ○日常生活と篆書の関連について考える。 ○「泰山刻石」の特徴に即した作品を創作する。 ○ICT機器で作品を共有し、「振り返り」を入力する。

【四】 平成三十年三月告示の高等学校学習指導要領 芸術 書道I 内容 A 表現 (1) 漢字仮名交じりの書 には、「漢字仮名交じりの書に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。」と示されています。ア 「イ」 目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現」について、次の問一・問二に答えなさい。

問一 この事項の「目的や用途」について、実用的な表現の場合と芸術的な表現の場合との両側面を意識することが求められています。それぞれの場合における「目的や用途」とはどのようなことですか。簡潔に書きなさい。

問二 この事項の「意図に基づいた表現」の「意図」とはどのようなことですか。簡潔に書きなさい。

7

高等学校 芸術科 (書道) 解答用紙

(三枚のうち一)

受験番号
氏名

一													問題番号		
問四						問三		問二					問一		解答欄
エ	ウ	イ	ア			イ	ア	オ	エ	ウ	イ	ア	エ	ア	
			料紙	筆者	由来	①	①						エ	ア	
						①	①								
						②	②						オ	イ	
						③	③								
						④	④								
						⑤	⑤							ウ	

7

高等学校 芸術科 (書道) 解答用紙

(三枚のうち二)

受験番号

氏名

問題番号

解答欄

二			一				問題番号
問二	問一		問五		問四		
	特徴・印象	字形	用筆・運筆	イ	ア	カ	オ

kyosai-guild.jp

7

高等学校 芸術科 (書道) 解答用紙

(三枚のうち三)

受験番号

氏名

問題番号

解答欄

四		三			問題番号
問二	問一		主体的に学習に 取り組む態度	思考・判断・表現	
	芸術的な 表現の 場合	実用的な 表現の 場合			

kyosai-guild.jp